

「私は知らないうちに  
”宝物”を  
手にしていました」

佐伯 政徳氏

〔外資系企業 最高財務責任者〕

公認内部監査人 (CIA)  
米国公認会計士 (U.S. CPA)  
TAC公認内部監査人 (CIA) 講座  
PartⅡ・Ⅲ・Ⅳ担当講師 (教室)

### 「私がCIAの取得を目指したキッカケ」

素朴な疑問というのは、誰でも持っているはず。「あれっ、これは変だな?」という疑問や「そんなことをやっていて大丈夫なの?」という危機感。そういう思いを少しでも持っている方は、きっとCIAに向いていると思います。CIAというのは極端に言えば誰でも持っている良い知識ですから、CIAはほとんどの方にお奨めの資格だということ冒頭で申し上げておきたいと思います。私がCIA試験にチャレンジしようと思ったのは、「自分に向いている」と感じたことと、CIAの将来性、そして経理財務の限界です。会計基準というのは会計士や経理担当が知っている世界なのに対して、内部統制は様々な現場に踏み込んで行って、現場の理解や共感を得ながら作り込む世界です。その違いが、私の目には非常に新鮮に映ったということです。

### 「これからCIAを目指す方へのメッセージ」

まずお伝えしたいのは、経理財務のスキルはやはり身につけたほうがキャリアアップになるということです。会社は経営の数値を投資家に見せるのがひとつの役割になりますから、数字に対する責任は非常に重いものです。その責任の懷に入る際に経理財務のスキルを持っていると、強いキャリアフレームになります。もうひとつは、コーチングのスキルを身につけるのがお奨めです。コーチングには、相手のターゲットにうまく導いてあげるという役割がありますが、これを内部監査のコミュニケーションに応用すると、現場の声を拾いやすくなったたり、たとえ衝突があっても流せる余裕が出てきます。この“流せる余裕”、つまり懷の深さが実は大切なのです。この2つのスキルを身につけることで、さらなるキャリアの飛躍が期待できます。

M&Aはこれまで以上の勢いで増加し、日本でも内部統制は当たり前の時代になりました。企業もクロスボーダー化し、これからますます多様な動きがあり得ます。そんな中、CIAはその冷静な視点で会社を見ることができるエキスパートであり、企業価値を上げることができる有効な資格とも言えます。私はたまたまキッカケがあってCIAの資格を取りましたが、知らないうちに「宝物を取った」と思っています。もし、あなたが「積極的な人生を得よう」と思うのであれば、CIAはチャレンジして絶対に損はない資格だと私は断言します。

### 「内部監査という仕事」

内部監査部門というと、一昔前は、地味で軽視され、会社のお荷物的存在の部署でしたが、昨今の経営を巡る環境変化の中で大きく様変わりしています。確かに、今でも会計不正に対するリスクが高いことから会計監査に重点が置かれていますが、従来の単なる指摘から「業務の効率性」に対するプロセス改善提案を助言するなど、コンサルティングの業務も増えています。内部監査は外部監査と違い、会社の内情をよく理解していることの強みを活かし、経営に役立つ監査を目指すなど経営陣の期待も年々大きくなっています。

### 「CIAの資格を取って転職する可能性」

内部監査部門として社内でキャリアアップを図っていくことも魅力的ですが、最近の転職市場では、多くの企業で金融商品取引法による内部統制監査に対応した人材を求めていることから、他社でキャリアアップを図っていくことも選択肢の1つとして挙げられます。コントロールの専門家であるCIA資格取得者かつ実務経験がある人材は、今までになく歓迎されることは確かで、確実にグローバルに活躍できるフィールドが広がってきています。最近では、情報セキュリティ監査を行っている人もCIA資格を取得し、内部監査全般の知識をつけて仕事の幅を広げています。ITと内部監査に精通している人材は社内にとどまらず、他の会社にとっても魅力的であり、さらに大きな仕事をするためのキャリアアップも図れます。

### 「これからCIA試験を受ける方、受けようと考えている方へ」

世の中に経営のプロはいますが、コントロールのプロはなかなかいません。CIAはコントロールの専門家です。CIA資格は、内部統制に対する経営陣の意識の高まりから今後ますます脚光を浴び、一目を置かれる資格になること間違いなしです。また、内部監査部門が社長直轄の部署として位置づけられている会社も多く、成果が会社の経営に直結するため、やり甲斐も大きいです。しかし、その一方で責任や期待も年々大きくなっているのも事実です。ダイナミックな仕事をしたい方には、うってつけの部署といえます。

「世の中に  
”コントロールのプロ”は  
なかなかいません」

高瀬 浩幸氏

〔大手総合電機メーカー 内部監査部門勤務〕

公認内部監査人 (CIA)